

大幅増員と夜勤改善で安全安心を 医労連 情報

徳島県医療労働組合連合会

TEL088(679)9272 fax655-9424

発行/2014年9月1日号

四国アクト徳島



実行委員長の宮本大志さん
阿南医師会中央病院労組
理学療法士24才↓

四国ブロックアクト in 徳島(日程:8月30-31日/主催・日本医労連四国地方協議会青年委員会/開催地・徳島県美馬市「四国三郎の郷」)が開催され、
四国4県から40名が参加しました。(香川18人・愛媛5人・高知6人・徳島11人)

天野智行さん(日本医労連青年協副議長・徳島県医労連執行委員)の司会で開会し、実行委員長の宮本大志さんが
歓迎挨拶を行った後、グループワークでの「生活賃金シュミレーション」を行いました。

月額30万円超「生活賃金シュミレーション」講師：井上純中央執行委員(徳島県医労連書記長)

20代の男女が1カ月間、独居生活するために必要な経費を「食費交際費・住居交通通信費・家具家電費・被服費・教養娯楽美容費」に分け、5つの班がそれぞれを担当し「生活賃金」を計算しました。

計算には「地域性を考慮すること」「独身青年が7割以上保有しているモノは必需品とし、人前に出て恥をかかないでいられるようにすること」を最低限と考える設定を加えたことにより、「マイカーは必需品だし保険料もかかる」「飲み会は1回4000円以内にすけど月2回は行きたい」「旅行も行きたい」など、次々に要求が盛り込まれた結果、女性30万6433円・男性32万6085円となり、現実とのギャップに驚きました。参加者からは「生活費を考えるといろんな角度から意見がでて面白い」「参加型学習会で勉強になった」などの感想が出されました。

講演では、労働組合が賃金闘争で重視する「生計費原則・賃金決定の3つの要素」を考えました。井上中執は「生計費は自分の生活費にプラスし『家族の生活費』と『教育等の養成費』が加わる。経営側の支払い能力だけを見て賃金要求をあきらめることは、低賃金を生み出す社会的な構造を隠し、低賃金や人員不足の原因である低い診療報酬と介護報酬を下支えしていることにもつながっている。大幅賃上げにこだわってたたかうことは、労働者の結集強化と経営側もたたかいに巻き込むことにつながられる。実際に14春闘で4万円要求を掲げしっかり議論した組合では権利意識が高まり、手当改善やサービス残業是正で前進している。「生計費」を基準に賃金に対する考え方を持つことが重要」と強調しました。



「参加型学習会で良かった」「生活費にもいろんな考えがあって面白い」など積極的な感想が寄せられました。

徳島・現地実行委員の皆さん

今年の2月に徳島開催が決まり、例年より短い準備期間の中、工夫しながらとてもよく頑張りました。
本当にありがとうございました。



笑顔一杯のアクト(๐^๐) BBQでの班交流、コテージでは深夜まで大宴会!

2日目は班対抗のレク5連発! (^^)! 身体をしっかり動かして頭も使ってアートにもチャレンジしました。「絵と言葉と表情」で自分の言いたいことを仲間に伝え、絆を広げていくゲームになっているところが、労働組合運動と通じあって「とっても素晴らしい!」



夜のBBQ、コテージでの2次会は熱く語り合いました!

プチ運動会で玉入れ競争